

平成 24 年度 8020 公募研究報告書抄録（採択番号：13-3-10）

研究課題：看護師養成課程における口腔機能に関する効果的な教育プログラムに関する研究

研究者名：大原里子¹⁾、梶井文子²⁾

所 属：¹⁾ 東京医科歯科大学歯学部附属病院歯科総合診療部、²⁾ 聖路加国際大学看護学部老年看護学

目的

介護における多職種連携および医療における医科歯科の連携を促進するために、看護師養成課程での口腔機能に関する効果的な教育内容や手法の開発を目的とする。

対象および方法

某公立大学の看護師養成課程に在籍する 3 年（98 名）および 4 年（調査用紙配布 98 名）の学生のうち研究協力の同意が得られた 3 年生 74 名、4 年生 49 名を解析の対象とした。

調査方法

看護師養成課程の 4 年生と 3 年生に対して、口腔機能等に関する知識の習得状況に関する調査を行い、開発した教育プログラムにより口腔機能等に関する授業を 3 年生に対して行った。

授業終了後に 3 年生に対して授業前と同一の質問によるテストを行った。

結果

正答率が 60%未満の質問が授業前の 3 年生は 26 問（33.3%）、4 年生は 33 問（42.3%）あり、23 問は共通していた。授業後の 3 年生の正答率で 60%未満は 0 問であった。3 年生の授業前の正答率 67.2%に比較して、授業後の正答率は 95.9%と高かった。（ $p=0.000$ ）

考察

4 年生と授業前の 3 年生の調査結果から、正答率が低い項目が多数認められ、口腔機能に関する教育の充実の必要性が示された。3 年生の授業前後の比較では、授業後の質問全体での正答率が大きく増加した。質問毎の比較においても、78 問のうち 59 問で授業後の正答率が有意に高かった。授業前の 3 年生の正答率が低いもののうち、特に重要だと考えられる、「嚥下機能低下の対応策としてキザミ食は有効でない」、「咀嚼機能低下の対応策としてキザミ食は有効でない」、「キザミ食は嚥下機能低下者の誤嚥のリスクを上げる」、「キザミ食は咀嚼機能低下者の誤嚥のリスクを上げる」、歯周病によりリスクが増加する疾患の「低体重児出産・早産」「動脈硬化」「菌血症」「糖尿病」は授業前の 10.8%~54.1%の低い正答率から、81.1%~98.6%へ大きな上昇を示した。研究で開発した教育プログラムの有効性が示唆された。

口腔機能の効果的な教育プログラムの開発と実施により、看護師養成課程の学生が、口腔機能低下者に対する質の高いケアを実施するための知識の習得が促進されると考えられる。

結論

本研究により、看護師養成課程に在籍する学生の口腔機能や全身疾患に与える歯科疾患の影響についての知識が、不足していることが明らかとなった。本研究で開発した教育プログラムにより、学生の口腔機能等に関する知識の習得が向上することが示唆された。